



只見振興センターだより

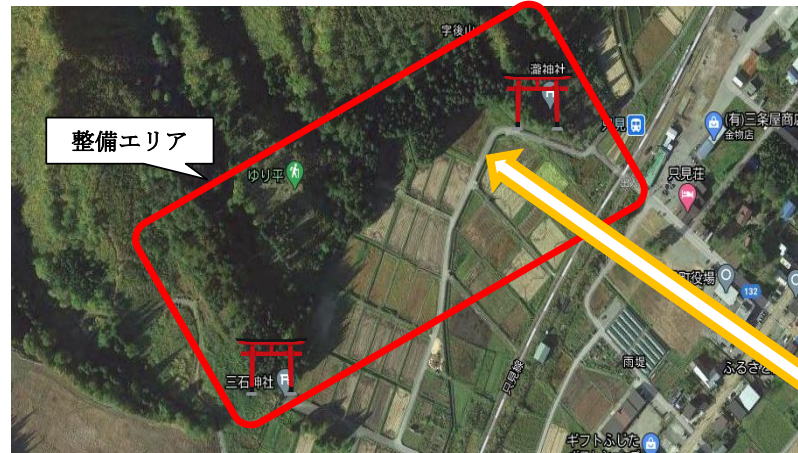
発行:只見地区地域づくり委員会 広報・広聴部

第25号

令和2年10月30日発行
お問い合わせ:只見振興センター
TEL:82-2141



滝公園から三石公園までの遊歩道を整備しています！



整備エリア

現在、滝公園から三石公園に繋がる「ゆり平」の遊歩道を整備しています。

只見区・只見町商工会・只見町観光まちづくり協会・只見牧野利用農業協同組合で組織する「只見滝・三石公園整備会」が平成27年度から取り組んでおり、今年度で完了予定です。遊歩道を歩いて、自然豊かな只見地区の景観を眺めてみませんか！



公園内の遊歩道

※会津大学短期大学の協力により『三石神社を巡る旅「ごえん結び」』が発刊されました。只見振興センターや町内公共施設等で配布していますので、ぜひご覧ください！

入口の案内看板



～只見小学校より～



尾瀬に行ってきました



9月12日に、今年度のふるさと登山が実施されました。今年は尾瀬に行きました。

現地では、6年生や5年生が1年生の手を引きながら歩いてくれました。お陰で1年生も元気に最後まで歩くことができました。途中、子どもたちはしおりに掲載された植物や岩魚などを探しながら歩き、見つけたときには大変喜んでいました。森の案内人の方々にも大変お世話になりました。多くの子どもたちが達成感を感じることができました。



プロレス列車がやってきた！



去る10月3日(土)「第4回只見線列車内プロレス」が、只見振興センター前にて、只見線復旧応援チャリティープロレスとして開催されました。フォールカウントぎりぎりから立ち上がるレスラー、ダイナミックなプレーを目の当たりにした観客からは、歓声が上がりました。



ワ～

オ～ッ

技が決まる度に会場から歓声が上がりました



開催当日は地元有志の方達が飲食ブースを開設し、観客の方へ提供されていました。

陸上記録交歓会開催



みんなよくがんばったね！

9月25日、只見町小学校陸上記録交歓会が開催されました。台風の影響で一日延期しての開催となりました。只見小5・6年生は全員が出場し、今までの練習の成果を発揮すべく全力を尽くしてきました。大変素晴らしい参加態度でした。



寒くなってきたので、センター前のかかし一家と駅前のサザエさん一家も衣替えしました！(10月)



なんでもチャレンジ隊

今年はいろんなことにチャレンジ!

7月:考古館で勾玉づくりと火おこし体験



かわいい勾玉ができました!



考古館にて



なかなか火がつかない~

8月:ブナセンターや田子倉ダムで楽しく学習しました。



お蚕さんすごい!



冷たくて気持ちいい~



サイコ~!!!

ただみ子ども教室からのお願い

スタッフさん募集中!

日時: 毎週月曜と金曜 午後2時30分~午後6時まで(下校時間により変更有)
月1回、週1回でもOK!、男性の方、保護者の方でも大歓迎です!(空いた時間にどうですか?)

もちろんスタッフさんには謝礼があります! 詳細は只見振興センターまでお問い合わせください!



特集:エコバッグの取り組み(作り方)

第2弾

- ①新聞紙の上部を谷折りにする。 ②折りに合わせて、新聞紙を半分に谷折りし、重なった部分をのり付け。



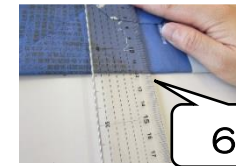
準備物

- 新聞紙2枚
- 30cmのものさし
- 水のり

- ③左端(右端)を右端(左端)の袋になっている部分に差し込み、幅が30cmになるところでのり付け。



- ④本体の中心線を谷折りして、三角形の中心がそろるように開く。中心の線から6cm測り、谷折りする。両方を同じように折り、のり付けする。本体部が完成。(開いて乾かしておく)

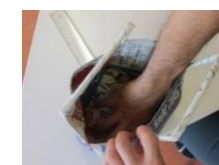


- ⑤4分の1に切った新聞紙を巻いて2本棒を作る(巻きにくいときは折り返して作ってもよい)。端をのりで貼り付ける。中心部分を持ちやすい幅にして、端を折る(もう1本も同じ幅で折る)。棒の端の部分を、16分の1に切った新聞紙で挟み、のり付けする。のりは全面に塗ってしっかりと貼る。



完成!

- ⑥取っ手を本体部にのりでしっかりと貼り付ける。新聞紙を16分の1に切ったもの(同じ大きさの広告でも可)にのりを塗り、底に貼ると完成!



あとがき クラスタ、パンデミックなど聞き慣れない言葉を毎日のように耳にするようになった今年。幸い只見町では今のところ新型コロナウイルスの感染者は出ていないようですが、少なからずほとんどの方が影響を被ったことと思います。仕事の減少による出勤停止や収入の減少、学校の休校、また様々な行事の中止など、暗い話題の多い年だったかもしれません。パンデミック(世界的な感染症の大流行)がいつ終わるのかまだ予測が付きませんが、コロナ禍により見えてきたこともあります。それは都市への一極集中が限界に達しているという現実です。これから都会から地方への回帰が始まるかもしれません。農業への就業、都会で磨いた技術をもとにした起業、あるいは小さな農とプラスアルファのローな暮らし、そんなU・Iターン者が増えることにひそやかな期待を持っています。今号が出る頃には、冬越用の野菜の収穫や雪囲いなどが始まる頃でしょう。昨年は異様な少雪でしたが、今年の冬はどうなるでしょうか。風邪などひかぬよう、またコロナ対策に気をつかい、この冬を迎えましょう。

広報広聴部副部長 熊倉 彰